慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	寺尾誠教授略歴・著作目録
Sub Title	Chronology and bibliography of the writings of Professor Makoto Terao
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1996
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.88, No.4 (1996. 1) ,p.651(149)- 653(151)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19960101-0149

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

寺尾　誠教授　略歴・著作目録

1995年12月現在

略　歴

1930年6月　東京府下の渋谷に生まれる。
1937年4月　渋谷区臨川小学校へ入学。
1938年4月　同広尾小学校へ転校する。
1943年4月　東京府立第23中学校へ入学する。
1945年7月　札幌市立第2中学校へ転校する。
1946年4月　東京府立第1中学校へ転校する。
1949年4月　慶應義塾大学経済学部へ入学する。
1952年12月～53年1月　インドへ旅行する。世界キリスト教青年協議会と世界キリスト教学生連盟総会に日本学生代表として出席する。
1953年4月　慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程に入学する。
1955年4月　同大学経済学部無給副手となる。
1958年4月　同有給助手となる。
1961年4月　同専任講師となる。
1963年4月　同助教授となる。
1965年8月～68年3月　アレクサンダー・フンボルト財団の研究奨学生として旧西ドイツのゲッティンゲン大学へ留学する。
1971年10月　慶應義塾大学通信教育部学務委員となる（任期2年）。
1972年4月　同大学経済学部教授となる。
1975年7月　文部省の科学研究助成金で慶應の同僚とアフリカへ調査旅行をする（二ヶ月）。
1979年9月　慶應義塾大学経済学部日吉主任となる（任期2年）。
1987年10月～93年9月　同大学通信教育部部長となる（任期2年を3回）。
1993年7月　文部省科学助成金の国際学術研究共同研究プロジェクトのためシリアのアレッポへ研究調査旅行する（2ヶ月）。
1994年8月　同じくアレッポへ行く（1ヶ月半）。

この間，社会経済史学会，日本ドイツ学会，大学キリスト者の会の役職を歴任する。

業　績

著　書

1．「西洋経済史」（高村象平及び小松芳喬監修，中村勝己及び渡辺国広と共著）。世界書院，1965年。
2．「価値の社会経済史―分業と支配の史的構造論―」税務経理協会，1977年7月（改訂版は1980年）。
3．「中世経済史」（後に「西洋経済史（中世）」と改題）。慶應通信，1978年。

4．「社会科学概論」慶應通信，1978年。
5．「温故知新―歴史・思想・社会論集―」（寺尾誠編の還暦記念論文集に「自伝的書誌」を執筆）。慶應通信，1990年。
6．「西洋経済史（近世）」慶應通信，1992年。
7．「都市と文明」（寺尾誠編の退職記念論文集，序章「都市と文明」およびII－1「イスラーム都市空間の構成原理」を執筆。ミネルヴァ書房，1996年春刊行予定。

研 究 論 文

1．「ドイツ農民戦争の歴史的意義」上，中，下の1，下の2，三田学会雑誌，1957年　50－3，50－6，50－12，1958年　51－6。
2．「中世末期西南ドイツの封建領主制」（「社会経済史大系」III－中世後期－所収）：弘文堂，1960年。
3．「歴史科学方法論」経済学年報（慶應義塾大学経済学会），1961年4号。
4．「近世初頭中部ドイツの農村都市，市場町について」(1)，(2)，(3)，三田学会雑誌，1963年　56－3，56－8，56－10。
5．Rural Small Towns and Market-towns of Sachsen, Central Germany, at the Beginning of the Modern Age, in: Keio Economic Studies, Vol. 2.
6．「エルベ以東・上ラウズィッツ地方の農村市場町」(1)，(2)，三田学会雑誌，1965年　58－4，58－8。
7．「針金工業町アルテナ――その発生史的研究――」，三田学会雑誌，1971年　64－8。
8．「『局地的市場』仮説の方法論的再検討」，三田学会雑誌，1973年　66－10。
9．「都市空間と都市形成―ルール工業地帯の場合―」，社会経済史学，1974年　39－6。
10．Minderstadt in historischer Sicht — Die Entwicklungslinie der Freiheit Altena, in: Wirtschaltliche und soziale Strukturen im säkularen Wandel, Festschrift für W. Abel zum 70. Geburtstag, Bd. 2, 1974.
11．Probleme der Sächsischen Stadtgeschichte vom Mittelalter bis zur Neuzeit, in : Keio Economic Studies, 1978, Vol. 15-2。
12．「源泉への自覚―イブン・ハルドゥーンの歴史哲学―」，アッサラーム，1979年　15号。
13．「都市と農村の抗争の近世的一類型―ザクセンのビール醸造営業をめぐって―」，三田学会雑誌，1982年　75－3。
14．「『宣言』と『資本論』の間より」，三田学会雑誌，1983年　76－3。
15．「表現される歴史」，三田学会雑誌，1990年　82―特別2号。
16．Traditional Structure of the Old City, Aleppo: The Multiple Composition and the Vertical Articultion of the Urban Community in Aleppo, in: Keio Economic Studies, 1995, Vol. 22-1.

翻 訳

1．ヴィルヘルム・アーベル「農業恐慌と景気循環―中世中期以来の中欧農業及び人口扶養経済の歴史―」，未來社，1972年。
2．カールハインツ・ブラシュケ「ルター時代のザクセン―宗教改革の社会・経済・文化史―」，ヨルダン社，1981年.
3．チャンドラン・D・S・デェヴァネッセン「若き日のガーンディー―マハートマーの生誕―」，未來社，1987年。

4．ギュンター・フランツ「ドイツ農民戦争」(中村賢二郎，前間良爾，田中真造との共訳)，未來社，1989年.

主要書評（研究ノート）

1．「東独における宗教改革と農民戦争の研究現状」，三田学会雑誌，1962年，55―4。
2．「ドイツにおける中世後期の農村都市研究動向」，社会経済史学，1963年，29―3。
3．「『地域経済圏』の比較的研究―ライン・ヴェストファーレン地方史の研究―」，土地制度史学，1968年　40号。
4．「西ドイツにおける都市発生の段階規定論争―― C. ハーゼ『ヴェストファーレン諸都市の発生』をめぐって」上，中，下　三田学会雑誌，1969年　61―6，61―10，1969年　62―1。
5．「聖書とイエスと貨幣をめぐる対話―滝沢克己著『バルトとマルクス』に触発されて」，大学キリスト者，1982年　70号。
6．「『文学論』における漱石文学思想の源流」，三銃士，1982年6号。
7．「西洋近代『合理主義』の形式と実質―山之内靖への批判的応答―」上，下　三田学会雑誌，1983年　76―2，76―5。

書誌の詳細は，寺尾編「温故知新―歴史・思想・社会論集」，慶應通信，1990年に執筆の「自伝的書誌」および「寺尾誠書誌一覧」を参照されたい。

なお，1961年～62年冬に執筆した「史的唯物論の再検討」は当初、「経済学年報」に掲載を予定したが，実現せず，1983年に研究会学生用に限定出版した。